

(19)日本国特許庁 ( J P )

(12) 登録実用新案公報 ( U ) (11)実用新案登録番号

実用新案登録第3081576号  
(U3081576)

(45)発行日 平成13年11月9日(2001.11.9)

(24)登録日 平成13年8月22日(2001.8.22)

(51)Int.Cl<sup>7</sup>

識別記号

F I

A 6 1 B 17/32

310

A 6 1 B 17/32

310

評価書の請求 有 請求項の数 10 L (全 4 数)

(21)出願番号 実願2001 - 2765(U2001 - 2765)

(22)出願日 平成13年5月7日(2001.5.7)

(73)実用新案権者 399019205

松田医科株式会社

東京都千代田区外神田2丁目17番2号

(72)考案者 小関智明

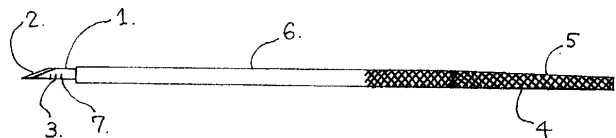
東京都豊島区駒込7丁目7番3号

(54)【発明の名称】 脊椎内視鏡手術用ナイフ

(57)【要約】 (修正有)

【課題】神経、血管、硬膜等を傷つけず、視野が広くとれ、操作が簡便で刺入深度を測ることができる脊椎内視鏡手術用のナイフを提供する。

【解決手段】シャフト1先端の斜面に沿って刃2を付け、刃の裏側は丸みを帯びた形状とし、先端からの目盛り7を施した。シャフト後端のグリップ4には先端刃面の方向を示す位置にマーキング5を施した。シャフト部分を被うスライドカバー6をグリップ側に引くとシャフト先端の刃面が現れ、先端に押し出すと刃面が覆われる構造とした。



1

2

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】脊椎内視鏡手術の際用いる組織切開用ナイフであり、シャフト先端が斜めにカットしてあり、斜面に沿って刃がついており、刃の裏側は丸みを帯びた形状となっており、先端からの目盛りが施してあり、シャフト後端は一段太くなり、表面に滑り止めを施したグリップとなっており、先端刃面の方向を示す位置は削り込んでマーキングされており、シャフト部分を被うスライドカバーは全体がグリップと同じ太さで面一となっており、後端はグリップ同様表面に滑り止めが施されてお

10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

り、スライドカバーをグリップ側に引くとシャフト先端の刃面が現れ、先端に押し出すと刃面が覆われる構造を持つ脊椎内視鏡手術に用いる組織切開用ナイフ。 \*

\*【図面の簡単な説明】

【図1】脊椎内視鏡手術用ナイフの刃を露出した外観図である。

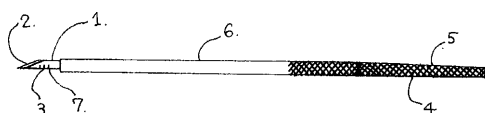
【図2】図1を上から見た図である。

【図3】刃を覆った時の外観図である。

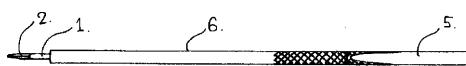
【符号の説明】

- 1 シャフト
- 2 刃面
- 3 丸みを帯びた面
- 4 グリップ
- 5 マーキング
- 6 スライドカバー
- 7 目盛り

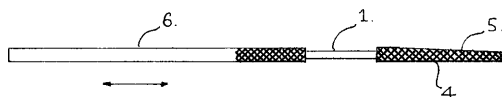
【図1】



【図2】



【図3】



**【考案の詳細な説明】****【0001】****【考案の属する技術分野】**

本考案は脊椎内視鏡手術の際用いる組織切開用ナイフに関するものである。

**【0002】****【従来技術】**

脊椎内視鏡手術分野では組織切開用の専用ナイフはなく、メスや先刃刀を用いて組織切開を行っている。

**【0003】****【考案が解決しようとする課題】**

深く狭いトラカールの中にメスや先刃刀を挿入していくと、刃が露出しているため、切開すべき組織に到達する前に神経や血管、硬膜等に傷をつける可能性が高い。これらの刃物は片刃ではあるが、刃の背中側も丸みを帯びていないため他の組織を傷つけやすい。神経や血管、硬膜等の損傷はしばしば重篤な障害をもたらす。また従来メスや先刃刀はそれ自体が太く、視野を著しく妨げる。

**【0004】****【課題を解決するための手段】**

シャフト先端が斜めにカットしてあり、斜面に沿って刃がついている。刃の裏側は丸みを帯びた形状となっており、先端からの目盛りが施してある。シャフト後端は一段太くなり、表面に滑り止めを施したグリップとなっており、先端刃面の方向を示す位置は削り込んでマーキングされている。シャフト部分を被うスライドカバーは全体がグリップと同じ太さで面一となっており、後端はグリップ同様表面に滑り止めが施されており、スライドカバーをグリップ側に引くとシャフト先端の刃面が現れ、先端に押し出すと刃面が覆われる構造とした。

**【0005】****【考案の実施の形態】**

図1は本考案の具体例を例示している。シャフト1の先端は斜めにカットしてあり、斜面に沿って刃2がついている。刃2の裏側は丸みを帯びた形状3となっており、先端からの目盛り7が施してある。これにより刃の刺入深度を測ること

ができる。シャフト1後端は一段太くなり、表面に滑り止めを施したグリップ4となっており、先端刃面2の方向を示す位置は削り込んでマーキング5されている。シャフト1部分を被うスライドカバー6は全体がグリップ4と同じ太さで面一となっており、後端はグリップ4同様表面に滑り止めが施されており、スライドカバー6をグリップ4側に引くとシャフト1先端の刃面2が現れる。術者はグリップ4を握りながらスライドカバー6を片手で操作することが可能である。材質はステンレスSUS304、SUS420J2、SUS330等が適している。

【0006】

図2は図1を上から見た図である。マーキング部分5は斜めにフラットに削り込んであり、先端刃2の方向を手元で確認できる。

【0007】

図3はスライドカバー6を先端まで押し出したところを示している。刃面は覆われ、この状態で目的位置まで挿入してから刃面を露出させる。

【0008】

【考案の効果】

以上説明したように本考案による脊椎内視鏡手術用ナイフは、挿入の際他の組織を損傷することがなく、視野も良好に確保でき、片手だけで刃の露出操作が可能である。先端に目盛りが付いているので術者は容易に刺入深度を知ることができる。グリップは刃の方向を示すマーキングが施してあるので、間違った方向に切開を加えることもない。

专利名称(译)	脊柱内窥镜手术刀		
公开(公告)号	<a href="#">JP3081576U</a>	公开(公告)日	2001-11-09
申请号	JP2001002765U	申请日	2001-05-07
[标]申请(专利权)人(译)	松田医药有限公司		
申请(专利权)人(译)	松田医药有限公司		
当前申请(专利权)人(译)	松田医药有限公司		
[标]发明人	小関智明		
发明人	小関智明		
IPC分类号	A61B17/32		
FI分类号	A61B17/32.310		
外部链接	<a href="#">Espacenet</a>		

摘要(译)

(经修改) 要解决的问题: 为脊柱内窥镜手术提供一把刀, 能够测量穿透深度, 操作简单, 不会对神经, 血管, 硬脑膜等造成伤害, 视野宽阔。刀片(2)沿着轴(1)的尖端处的斜面附接, 刀片的后侧是圆形的, 并且施加来自尖端的刻度(7)。在轴的后端处在指示尖端叶片面的方向的位置处对标记5施加标记5。当覆盖轴部分的滑动盖6被拉向抓握侧时, 轴尖的刀面出现, 并且当推出到尖端时刀面被覆盖。

